むさし同窓会

編集発行
武蔵野市境4−13−28
都立武蔵高校
同窓会編集委員会
電話（0422）51−4554
印刷所（株）三幸印刷
武蔵野市境 3−1−10

48年度同窓会総会は5月13日です。

市ケ谷（3年目）

ヴォーグビルで楽しいパーティを企画!!

編集局よりおねがい

次号からはもっと広範囲の会員の方々から取材いたします。特定の方に記事を依頼することも考えられますので、その際にはぜひ積極的に御協力下さい。

御転任された先生

志水富夫先生　↓　都立九段高校へ
横田利彦先生　↓　都立深川高校へ
吉田政史先生　↓　都立武蔵高校へ
（定時制）

（関連記事は三面）

山梨先生を偲び

関塚　正

山梨先生と言えば、今でもそこに立って居られるように思われる程、強い印象を人々の胸に焼きつけられた人柄の持ち主でした。

今年の初めに飯田橋の警察病院へ入院され、次第に病勢が悪化されても、日頃とかわらず先生特有の話術で色々と話されていました。一月の末にお訪ねした時は面会謝絶になっていましたが、心よく会って下され、いつものような調子で『帰りに新宿でいっぱいやって行けよ』と重い病を押して言われた時は、胸にジーンと来てしまってどうにも返事ができなかったものです。それから一ケ月間、どんなお気持で病と戦われたことか、おそらく先生の生涯で最も長く在職され、こよなく愛された武蔵高校のことを毎日のように思い出されて、いろいろなことを繰り返し反復されたことでしょう。

武蔵に在職中の先生について書こうとしてもとても書き尽くせるものではありませんが、同窓の人人の記憶に残ることの二・三を拾って、山梨先生の生前を偲びたいと思います。

山梨先生で先ず特筆しなければならないことは、新聞むさしの育成です。戦後旧制の高等女学校から新制の高等学校にかわって来た混乱の中で、当時の教頭松田先生の御努力で、いち早く新聞を出すことになったのですが、松田先生が多忙になられたため、その後を引き継がれて編集部の指導にあたられました。原稿集めから記事の編集まで、生徒と一緒になってやっておられたことを思い出します。発刊日が迫るのにガラ刷りが届かず、冬の夜寒に印刷所へ出かけて炭火をかきたてながら校正されていたことが再三ならずありました。また記事の中で一きわ冴えていたのが「壁耳」です。これは山梨先生が創始されたもので「武蔵雀郎」のペンネームで書きまくったものです。新聞がくばられると、誰もがまっ先に眼を運ぶ欄がそこで、校内におこったエピソードを笑いを含めて上手にまとめてあり、やり玉にあがっても腹の立てようがないところがよく、体育のY先生がトップを切ってピアノを購入したこととか、数学のN先生やM先生のセッカチぶりなど、校内に明るい話題の花を咲かせた先生の仁徳は忘れることができません。

先生の担当教科は生物でした。早春の山野に出かけてソクシンボを採って来て、新学期の最初の時間に胞子のダンスを観察させ、生命の神秘を教えられました。また五月になると、校外へ野外観察に出て、国木田独歩で有名な境橋方面へと向い、新緑に色彩られたヤマモミジのトンネルを過ぎ、上水場まで足をのばし、そこの芝地でツツジの花の香にむせびながらブンガワンソロやシューベルトの野ばらを歌われたものでした。その頃の先生は俳句もよくやられ同窓生の中にはその手ほどきを受けられた方もあると思います。その他なんでも気軽に相談ができ、どこまでも面倒を見てくれたもので、先生というよりむしろ友達のようになって生徒に親しまれました。

先生は東大の林学科の出身で、自然を好まれ、特に手を入れない樹木のたたずまいを愛された武蔵高校には創立当初にあった農家の防風林が数ケ所に残っていてケヤキやシラカシやヤマモミジなどの大木が林をつくっていたものです。その後校舎の増改築が進むにつれて、これらの木々が伐採されていきましたが、その都度、保護を強く主張されていました。現在校内の所々にあるヒマラヤスギの林は、山梨先生の発案で苗木を買い、切られた木の緑をとりもどす目的で植えられたものです。その当時、ヒマラヤスギは世界三大美樹の一つであると言っておられたことを思い出します。また先生が愛された樹にコブシがあります春になると純白の花を無数につけて校庭を飾る大木で、樹令は百年以上にもなっています。これも何回か切り倒されようとしました。ところが運よく生きのびて、今春新校舎の南側へ移植され美しい花を開きました。先生が御健在なら是非見ていただきたい樹ですが、それもかなわず、コブシやヒマラヤスギとともに生前の御恩に感謝し、御冥福をお祈りして、おわりとします。

昭和四十八年三月二〇日

K K K K K K K K K K

武蔵三年間の変化

有馬敏行

前校長の井上敬一先生のあとを、お引受けして、本校に赴任したのは、三年前の四月でした。

小笠原二年間の生活を終えて内地の桜の満開の武蔵高校に着任して、第一に、歴史の古い学校に来たことを感じました。特に木造校舎の廊下や体育館に古さを感じました。その後、第一年目に体育館と南棟増築、第二年目にプール、生徒部室、南棟増築の工事が行なわれました。第三年目はドル・ショックで工事は行なわれず、緑化運動に力を注きました。来年度は、何とか増築工事が認められそうです。四十八年度、増改築工事が行なわれますと、鉄筋校舎はほぼ完成となり、木造校舎はなくなります。

卒業生諸君にとっては、思い出の校舎の姿が消えることは残念なことかもしれませんが、新しい明るい教室で、後輩の諸君が勉強できるようになる、ということで、ご勘弁いただきたいと思います。

武蔵に在職中の先生について書こうとしてもとても書き尽くせるものではありませんが、同窓の人人の記憶に残ることの二・三を拾って、山梨先生の生前を偲びたいと思います。

イメージの変った武蔵の姿をぜひ見に来ていただきたい、と思います。そして、そこで学びクラブ活動に励む後輩にも声をかけていただきたい、と思いま

す。

毎年の同窓会の総会は楽しみにして参加いたしました。この二年間は市ケ谷のヴォーグビルで行なわれ、新しい会員を迎えて、盛大な会でした。古い会員の方も、昔の先生方も参加して良い会であったと思います。三年前、つまり昭和四十四年度の総会は、武蔵の旧体育館で行なわれたと思います。あのときは私も着任間もなくであったせいか、その会の情景が強く印象に残っています。歴代の校長、教師であった方々ともひとつのテーブルに集まって、いろいろと昔ばなしをお聞きしながら、ビールを飲んだことを思い出します。

武蔵の鉄筋校舎が完成した頃（たぶん来年）には、武蔵で総会が開かれるのも一案ではないかと思います。

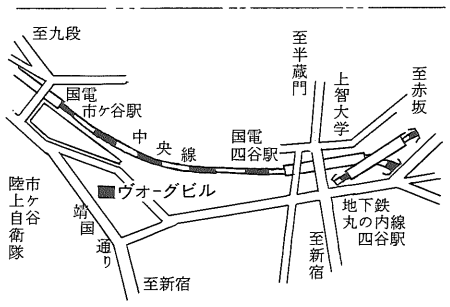
おしらせ

同窓会総会

日時　五月十三日(第二日曜日)午後一時〜四時
会場　市ケ谷ヴォーグビル十二階　大ホール
会費　五〇〇円（一部同窓会負担）
　但し新会員は不要
主旨　新会員歓迎・会員親和
議事　決算・予算報告・承認
　新役員選出

パーティです。大いに食べ、飲み歌い、おどりましょう。

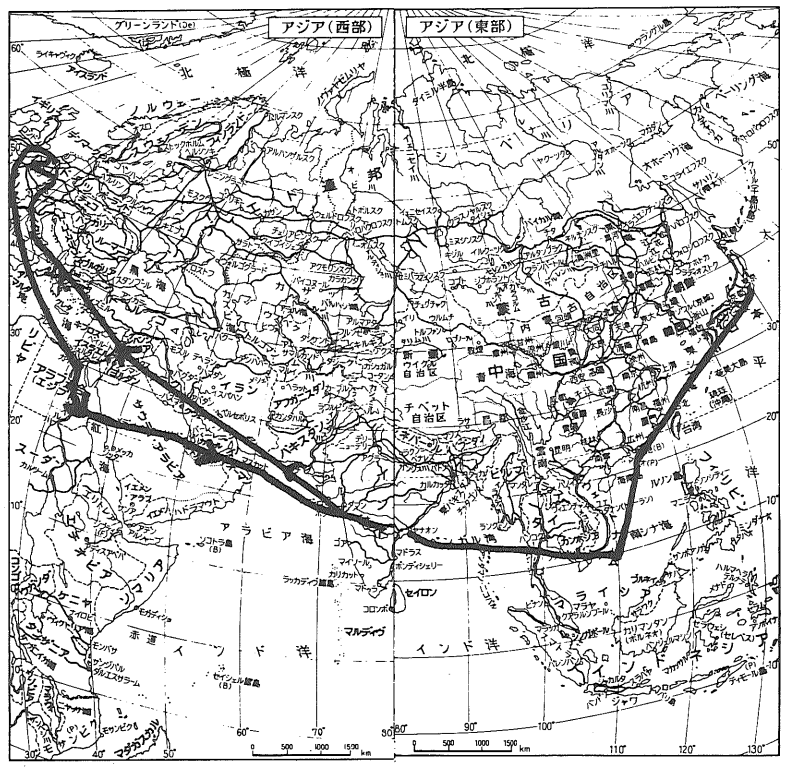
準備万端整えてお待ちしています。



ヨーロッパ・アフリカ・東南アジアの旅

47年7月～8月にかけて

橋浦忠義・井関幸子



始めての海外の旅にかけた期待は大きな夢に膨んでいた。二十日の旅程。カイロに始まって、伊・仏・英、など西欧六ケ国をバスで周遊する試みである。半年前からとりかかった下調べは、僅かに数地点のみで停滞するという心細さであったが、会話に強い井関先生が同行してくださるのが、大きなささえであった。旅行の収穫は、予習段階が勝負といってもよかろうか。下調べを徹底したローマンフォルムとか、サンゴタルドの峠道ではかなりの成果をあげたが、パリやライン、ロアールの城めぐりでは、宝の山に入りながら手を束ねて帰る空しさが残っている。ローマでは班編成のため、五名が郊外の宿に割当てられたまま、本隊から忘れられて、置き去りをくってしまった。発憤して、咄の独り歩きを始める。さすがに世界の観光都市ローマは、赤ゲットにそっぽを向けるような無慈非なことはしなかった。カピトリーノの丘をさまよえば、マルクス・アウレリウス聖帝の騎馬像を教えられ、古代ローマの市民登録所に導いてくれる。フォルムの廃墟では四一〇年に、アラリックがローマ焚掠したおり、崩壊したエミリア・バシリカの破風飾りのブロンズが、色大理石の床に、青く錆びついて残っている一点を凝視めて、史潮の遠鳴りを感じている。閉館後のカラカラ浴場の守衛をカメラに撮る交歓から始まって、人々の善望の眼ざしの中を内に招じられる。



フランス　領主の邸前　（橋浦）



フランス　エッフル塔前　（橋浦）

入場料も支払わないで、とうとうセットされたアイーダのステージまで上りこんで記念撮影をする。爽竹桃の並木道を、たそがれの紫に染まりながらいく胸の中には、ヴェルディのマーチがジーンとどよもしていた。トレヴィの泉の夕べ、イタリヤの市民と愛国行進曲を合唱、夜のエセドラの広場でカンツォーネの快さに酔うなど、深夜十二時の帰館。こうした自由行動のたのしさは、最近の高校生が修学旅行に求める心と些かも変りはない。ただ事前の準備と関心の深さが、欣びの量と係り合うことであろうか。下調べした中世の修道院の宿舎を求め、サンゴタルドの頂き二千メートルの高原を、時計を見つめながら三十二分のマラソンを試みた懐い出。許容時間の限界内で時間厳守を自律の鉄則として徹底したこの旅。平均して睡眠四時間半をとおした緊張と歓喜の旅行の成果は、三年にわたる痼疾の血糖値を快癒せしめた。旅行後に没頭し続けた半年の整理が、はからずも新しいオリエント旅行を招いて、この三月の旅路への新たな期待が高鳴ってくる。予・復習のくり返しごとに、のぞみは大きく膨らんでいく。同窓の諸君と一しょにもし旅の計画を持つことができたら……。

（橋浦忠義）

❀ ❀ ❀

テル＝アビブ、ニューデリー、キャセイ航空等の連続飛行機乗客事故は出発当日の私にも襲った。エジプト国営航空のチャーター機が大統領を乗せてリビア騒動の現地に飛んでいってしまったのである。急きょルフトハンザのジャンボに乗り換えた私を含む一行の先発隊は、おかげでバンコク見学が追加され、私の家族がここだけは行かないでくれと神かけて祈ったテル＝アビブ空港経由でローマへ行くという貴重な体験をすることになったわけ。



イタリヤ　カラカラ浴場前（井関）

○テル＝アビブ

午前四時五分テル＝アビブ着。空港ロビーへ向かう長い列の先にカーテン室があり、男・女別々に厳重な身体検査。袋という袋、チャックはすべてあけられ、カメラ水筒の中までのぞかれる。日本人女性は要注意なんていわれビクビクだったが、案外やさしいイスラエル婦人警官でホッとした。

○パリ

びっしりつまった日程にはなんの不満もないのだが、この団体は時半。宮殿は五時が閉門となっている。助手席に私ぐらいの大を乗せた大学教授みたいな感じの運転手を相手に三十フランで交渉成立。五時二十分着で半分あきらめた私達に門は開いたまま。マリーアントワネットのピアノ、鏡の間…案内人のフランス語は快い音楽に聞こえた。地下鉄は社会科準備室ぐらいのエレベーターで下に降りる。ホームの入口に扉があって電車が入ってくると閉まるようになっているからかけ込み乗車なんてできない。その閉まる扉にすがって、通ろうとしているのは日本人だそうだ。電車の戸は手であけて降りる、なんとも貫禄のあるものだった。その夜はセーヌの観光船に乗り両岸に展開するパリの夜景を楽しんだ。

（井関幸子）

福な家だという。ニッパやし、ココナツやしが茂っている。折から水上生活者の舟が五・六隻、チーク材を積んで川を下っていった。トンブリの朝市通りはまさにラッシュ時、水上タクシー・観光船・物売り舟が行きかう。この間も観光船と物売り舟が衝突して朝市で仕入れた品物ごとひっくりかえったが、この弁償金がなんと一七〇〇円也であったとか。ワット・アルン（トンブリ王朝時代のタークシン王を記念した寺）、王宮、ワット・プラケオ（エメラルド・実は水晶・の仏像がある寺）ワット・ポー（巨大な寝釈迦像がある寺）等をめぐって第一日目は無事に暮れた。

○テル＝アビブ

午前四時五分テル＝アビブ着。空港ロビーへ向かう長い列の先にカーテン室があり、男・女別々に厳重な身体検査。袋という袋、チャックはすべてあけられ、カメラ水筒の中までのぞかれる。日本人女性は要注意なんていわれビクビクだったが、案外やさしいイスラエル婦人警官でホッとした。

○パリ

びっしりつまった日程にはなんの不満もないのだが、この団体は



ベルギー　小便小僧前　（井関）

○バンコク

バンコクの昔の姿を伝えるトンブリの朝市は、メナム川支流であった。両岸の家は板とすだれでできているけれど、中はテレビ・ステレオ・扇風機もある。川は生活のすべて。交通・洗濯・入浴・子供達の遊び場である。飲料水は雨水。立派な水がめが沢山ある程裕

故北川明英さんのこと

昭和四十七年十一月二日、『北川さんが亡くなられた』これを耳にした方は一応に「オヤ」と首をかしげる、ムリもない。なぜならあの威風堂々、お顔を拝見しなければ、一寸近寄り難いような立派な体格をなさっていた。あの方から、少くとも今の若さで他の人人にさきがけて、この世を去ろうとは思いもかけないことであったから―。

「彼に接した誰からも愛され、信頼された人」　こんな月並ではあるが、未来に対し、人々に希望と期待をもたせたら惜しくも先に逝った彼に、この言葉を心から捧げたい。彼自身も残念であろうし、遺された私たちにとっても、これ以上残念なことはない。

彼の生い立ち―

一寸接した方には想像もつかないかもしれぬが、生粋の九州男子である。芯の強さをおおうあの柔らかな物腰、言葉づかいに惑わされてしまうが、実は九州、大牟田の産なのである。そこで高校までを過ごし、向学の志に燃え東京へ、そして私たちの仲間入りをした。厳しい職務の傍ら、初志の通り大学を卒えた。「白雲なびく…」と謳われる明治大学である。その後も、その人柄のようにコツコツと地道に勉学に努め、その成果を目前に、これからという時の突然のできごとである。突然という言葉を使ったが、誰に、又彼自身すらこのような終幕を告げると予想できたことか。

東京の空の下の『日比谷高校』を振り出しに我が『武蔵』『富士』『練馬工業』とひたすら彼自身の驀進を続けていたさ中に、突然に病魔が彼を連れ去ってしまった。皆が、驚き、容易に信じられないとしても不思議ではない。

奇しき縁か『武蔵高校』に勤められたことで生涯の妻もめとられた。白銀の世界を舞台に、趣味のスキーを通し、本校の卒業生であり、その後ずっと保育園で活躍されていた、久尓子夫人との出会いである。

現在小学校一年生の北川二世を筆頭に、一昨年三月二十一日、御二人の結婚記念日には同時に二人の可愛らしいお嬢さんを得、ますます御家庭も充実し、昨年九月には久尓子夫人も「園長」の座を降り、家庭一本にと周囲の者も羨むばかりであった。それだけに最愛の三人の幼い子供と慎しやかな奥様を遺し、ひとりだけ逝かねばならない心中はいかばかりであったか。最後に「口惜しい！」の言葉をのこしていったかに伺った。世の中は、ままならないものですね一病息災のこの私―。

この上の私たちに残された道は生前彼が皆に対したように、優しく、時には厳しく常に思いやりの深い態度で奥様、お子様の安定した日々、健やかな成長これを陰に陽にできるかぎり見守り、たすけることであろう。思うことの半ばで倒れ、口惜しくもひとり逝った友北川さん、残念ではありますが心安らかに、皆の成長を見守っていて下さい。それぱかりを心から祈っております。

逝きにし友よいまいずこ
ともにはげみし　学舎の
二歳の夢　憶いみん

昭和二十九年四月
　都立日比谷高校勤務
昭和三十四年九月
　本校勤務（事務）
昭和三十六年五月
　都立富士高校勤務
昭和四十二年四月
　都立練馬工業高校勤務

（文責・増田恵美子）

❀ ❀ ❀ ❀
❀ ❀ ❀ ❀
❀ ❀ ❀ ❀

北野先生の思い出

本校旧職員北野義樹先生が本年二月二日に芦花中学校へ通勤の途中急逝されたとの報を受け驚いております。謹んで哀悼の意を表します。

北野先生といっても多くの同窓会員の方には記憶がないことと思う。「むさし創立十周年記念号」によると昭和十九年から二十四年まで本校で農業を担当しておられました。だから共学になってから入学した方には縁がないわけです。

教科目の中に農業があったということは不思議に思われるかも知れないが、当時は戦中戦後で物資が欠乏し自給自足を強いられ、かつ勤労精神を養う上にも効果があったものと思う。

先生は机上の学問よりむしろ実地の指導を多くされました。いまは全く見られないことですが、天秤棒で肥桶を運んだ先生のお姿が目に浮かびます。生徒はきたないのでいやがったようですが、先生はまことに熱心に指導されていました。

現在の鉄筋校舎が建つまでは百メートルもある長い木造校舎が一棟だけで、校舎の北側はかなり広い空地があったので大部分を畑にしていました。さつまいもの苗の植え方、麦踏など同僚の教員もいろいろ教えていただきました。そして自分で植えた畑で熟したいちごやトマトのおいしい味はいまでも忘れられません。

先生は農業のほかに国語の教員資格も持っておられ、また書道にも秀でておられましたが、本校ではついにその方面のご指導はされないで、農業の科目がなくなるのとともに中学校に転任されたことは残念でした。

（文責・三神）